

第19回 周南市都市再生推進協議会

議事要旨

日 時 令和7年7月8日（火）14時00分～15時50分

場 所 周南市役所 シビック交流センター 交流室1

○出席者（順不同、敬称略）

委員：	山口大学大学院創成科学研究科	教授	鵜 心治
	周南公立大学経済経営学部経済経営学科	講師	百武 仁志
	徳山工業高等専門学校土木建築工学科	准教授	河野 拓也
	一般社団法人徳山医師会	事務長	西岡 浩司
	社会福祉法人周南市社会福祉協議会	事務局長	小林 展衣
	周南市青少年育成市民会議	事務局長	原田 浩樹
	公益財団法人周南市文化振興財団	文化会館館長	西村 達也
	一般社団法人山口県宅建協会周南支部	支部長	箱崎 壽美枝
	徳山商工会議所	専務理事	小林 和子
	周南市中心市街地活性化協議会	マネジメント会議委員	舞田 恵子
	西日本旅客鉄道株式会社中国統括本部 徳山統括駅	駅長	若林 恒輔
	防長交通株式会社	乗合営業部長	河合 貴志
	周南市母子保健推進協議会	会計	江田 喜美江
	公募委員		松永 朋之
	公募委員		小土井 稔
オブザーバー：	国土交通省中国地方整備局 建政部都市・住宅整備課	建設専門官	塚本 勝幸
	山口県 土木建築部都市計画課まちづくり推進班	主査	沖村 卓美
事務局：	都市整備部	部長	行富 広康
	都市整備部	部次長	河村 直
	都市整備部都市政策課	課長	原田 修司
	都市整備部都市政策課	課長補佐	金子 容子
	都市整備部都市政策課	係長	守田 香奈枝
	都市整備部都市政策課	主査	清水 隆正
傍聴：	6 名		

議事次第

1. 開会

2. 挨拶

3. 報告

周南市立地適正化計画の5年見直しについて

4. 議事

周南市立地適正化計画の進捗状況について

- ・周南市立地適正化計画の届出状況
- ・指標評価の達成状況
- ・施策の取組状況

5. 閉会

~~~~~

午後14時00分 開会

開会宣言

部長挨拶

委員紹介

委員の定数報告

会長・副会長選出

(会長)

それでは、次第に沿って進めていきたいと思います。

次第3の報告「周南市立地適正化計画の5年見直しについて」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

説明

(会長)

ありがとうございました。それでは、ただいまのご説明につきまして、ご意見、ご質問ございますか。

一点注意しないといけないのは、周南市の推計人口について、令和2年の生産年齢人口は、国立社会保障・人口問題研究所が出している推計値よりも実績値が既に5千人少なくなっているということです。令和2年以降の推計値がありますが、この通りには多分ならないと見た方がいいということです。全体的な人口減少のスピードというのは、かなり速くなっていると見た方がいいのではないかと思います。

他に皆様からコメントございますか。もし、お気づきの点等ございましたら、次の質疑のときにでも、ご発言いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次の第4の議事に移ります。「周南市立地適正化計画の進捗状況について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

説明

(会長)

それでは質疑に入りたいと思います。周南市立地適正化計画の進捗状況について、順番に質問、意見

をお願いしたいと思います。まず、周南市立地適正化計画の届出状況の説明につきまして、いかがでしょうか。

(委員)

都市機能の誘導については、区域内外において該当する施設の建設・開発がほとんど行われていないという問題がございますが、現在の状況につきまして市の意見をお聞かせ願いたい。

(会長)

都市機能誘導区域の誘導施設数に関する質問だと思いますが、事務局いかがでしょうか。

(事務局)

都市機能誘導施設については、立地適正化計画本編の101ページに誘導施設として一覧表を載せています。ご覧いただけると分かるように規模の大きい施設となっており、その性質上、費用や広い土地などが必要になります。これらの性質上、ハードルが高くなっている可能性もあると考えておりますが、このような施設に立地していただける、選んでいただけるような、魅力的なまちづくりについて、行政としてできることをやっていければと考えています。

(会長)

新築住宅戸数の共同住宅が、居住誘導区域の中で立地が進んでいっていることは結構なことですが、戸建住宅については、令和6年度は都市計画道路が整備されたということで、少し多くなっていますが、全体的に居住誘導区域の内と外で、内の優位性が無いように見えてしまうのは少し残念だと思っています。

また、県内の転出者が下松市に移動しているということと、この居住の区域内外の戸建住宅が拮抗していることも併せて、考察など言える範囲で結構ですので教えてください。

(事務局)

まず、戸建住宅が区域内と外で拮抗していることについて、皆様ご存じの通り、周南市は市街地が海と山に挟まれており、コンパクトな市街地が広がっています。一方で、言い方を変えれば、土地が無いとも言えると思っております。戸建住宅につきましては一区画ごとに家が建っていくので、ある程度の土地が必要になります。現在、外側に市街地が広がっていくことを抑制するために、立地適正化計画を進めていますが、一方で、内側に土地があるかという現実的には難しいという状況です。今回、具体的な資料としてはありませんが、例えば空き家などの内側の資産について、うまく循環していくような仕組みができればと思っております。

また、県内での転出先が下松市が多いという状況について、今回初めて細分化してみた結果わかったわけですが、選ばれている理由というのを、価格や利便性といった色々な要素があるかと思いますが、周南市としての課題を明確にしていくことが大事だと考えております。

(会長)

前半の居住誘導区域内外の戸建住宅の拮抗については、事務局の説明通りだと思います。居住誘導区域内で、低未利用土地といわれるような所について、ぜひご検討していただければと思います。その他皆さんの方から何かございますか。

(委員)

先ほどの会長の質問と少し重複するかもしれませんが、共同住宅が増えているなかで、立地適正化計画届出状況と新築住宅戸数密度の資料を見ると、周南公立大学の周辺で増えていると思います。こちらは立地適正化計画の区域内ということで、周南公立大学の学生が住みやすいように、市としてなにか対策などがあればいいなと思いました。

(事務局)

城ヶ丘の周辺の共同住宅が増えていることについて、周南公立大学の学生が増えておりニーズがあり、共同住宅の建設等も進んでいると推察されます。このことに対して今すぐに市が具体的に何か実行するということはありませんが、市場の方で動きがあるということですので、静観するところかなと思っています。

(会長)

他にございますか。それでは指標評価の達成状況について、質問があればお願いします。

(委員)

都市機能の現在の状況につきまして、市の意見をお聞かせ願いたい。

(事務局)

都市機能の現状については、周南市立地適正化計画でもご説明しております、徳山駅周辺と新南陽駅周辺に医療・福祉・商業等の都市機能が集積していますので、この両軸を都市機能誘導区域として定めて、まちづくりを進めています。この両軸が市の中心部として、都市機能の役割を担っていくことが非常に大事だと思っています。

また、新たに都市機能を誘導することも大事ですが、人口減少社会においては、現状の都市機能の維持も大事になるので、その視点も持ちつつ、立地適正化計画に基づいて、引き続き進めていきたいと思っています。

(会長)

他にございますか。

(委員)

2点質問させていただきたいと思います。まず1点目は徳山の歩行者通行量について、令和5年度以降のみなみ銀座の通行量が増えているということでしたが、TOKUYAMA DECK は、下を歩く所と上を歩く所がありますが、どのように計測されたのでしょうか。

もう1つは、若い世代の転出者数の集中についてです。一概には言えないと思いますが、周南公立大学の学生が影響しているのかなと思うところがあって、立地適正化計画の142ページを見ると、基準値の平成27年度の周南公立大学の影響がなかった時代と比べて、今の状況が周南公立大学の影響があるのかという点について、分かれば教えていただけたらと思います。

(事務局)

まず歩行者等通行量について、徳山駅からTOKUYAMA DECKに至る道というのが、元々あった下側のみなみ銀座通りでの計測になります。もう一つは、徳山駅賑わい交流施設2階のデッキからTOKUYAMA DECKへ続く駐輪場の上空の人工芝広場を通行する通路で、計2つの経路があります。資料1で示している31ページの大和証券前という測定点は、従前から継続測定している場所であり、前者の銀座ビル1階周辺を計測しています。

2点目の周南公立大学の学生については、資料1の36ページの22歳頃の転出についてのご意見だと思います。大学の学生が増えれば、転出者数に反映されている可能性もありますが、一方で、大学に入学する学生の全てが住民票を異動しているかは不明なため、この点は1つ課題と考えています。以上の理由より、このデータを一概に鵜呑みにはできませんが、全てのデータを追いかけていくのは難しい面もあります。今回事実としては資料のグラフの通りとなります。

(委員)

ありがとうございました。周南公立大学はありがたいことに地元の子どもたちが入学しているようで

す。周南公立大学でどこまで情報が出せるかということもあると思いますが、それらも含めてしっかり分析していただいて、昔からの増減だけではない新しい指標の取り方ができるとより良いのかなと思いました。

(会長)

その他ございますか。

(委員)

公共交通の指標評価につきまして、市の意見をお聞かせ願いたい。

(事務局)

公共交通の評価指標につきましては、移動手段が確保された地区の人口割合になっています。全てを防長交通株式会社でやっていただくことも難しいので、市の公共交通対策課がコミュニティ交通を導入して、カバー圏域を広げるということを聞いています。今後につきましては引き続き、公共交通対策課と連携しながら、公共交通サービスの向上について進めていきたいと考えています。

(会長)

その他いかがですか。

(委員)

徳山大学から周南公立大学に変わる際、学科が増えると聞いた時に、周南公立大学の周辺、或いは徳山駅前まで含めて、今現在のアパートのワンルームなどがどのくらいの空き数があるのかについて、周南公立大学になるときは足りるという感覚がありました。その時に不動産業者で何軒か持っているところがあるかなどの調査をしました。もちろん市役所の方とも、この先大丈夫かということを協議しました。

その際に私たちが課せられていることは、お金がかかることになるので、とにかく建てればよいということではないと思いました。その後、大学が一期目の時にすごく評判が良かったのですが、評判が良かったということで、一気に部屋数を増やすということではできないので、古い所でリフォームして使えないかなどをもう1回調べ直しました。2年目からは商売ではなく、学生がどれだけ落ち着かれるかという視点で進めて、市の住宅課の方も一緒に、市営住宅で使える所は学生に貸し出すということで努力していただきました。3年目が終わり、来年が4年目になりますので、ここを過ぎたらおおよそサイクルとしてうまくいくのではないかと考えています。そこまでは我々がとも思いますし、やはり地元の大学なので、学生の皆さんに落ち着いて入って欲しいと思っています。

学生の中には、下松の方に行かれた方もいますが、ほとんどの方が徳山駅周辺やその西側で、親から見るとやはり大学の周辺が交通費の面で良いようです。バスも通っていますし、徳山駅周辺にもかなりのワンルームができていますので、それらも含めて活用されるようにしました。

来年の学生が200人増えてくることについても、今、大学の近くにも色々と増えてきていて、アパートが建っていたりします。不動産業をやっている視点から見ますと、徳山駅周辺で以前はテナントや物品販売していたところの少し離れたところに、今はアパートがたくさん建っています。昔の周南市、旧徳山市がすごく繁栄していた頃のように、元に戻るとは思っていませんが、あまり周辺に固定したアパートを建てるのはどうかと思います。

周南市は、昔から駐車場の問題が一番ネックです。今は徳山駅にも駐車場がありますが、1時間は無料で置けますが、それ以外はまた出て探すというのも大変です。そういうところをこれからとも思いますが、これもお金がかかることです。

あとは一般の方が家が古くなったら、すぐに考えることは駐車場にすることです。そうすると、昔は

商業地域で人が集まっていた場所が、店を閉められて、建物を壊されて、そこが駐車場になっている状態なので、徳山に買い物に行こうという魅力がかなり乏しくなっています。これを誰がどうして欲しいとは言えませんが。

今後は駅の周辺でのマンションは仕方がないかもしれません。しかし、アパートをあまり建てすぎると、そのアパートも必ず駐車場が必要です。本来まちの賑わいを出すためには、お金を落とす場所があることがチャンスになります。

昔は区分けをした地域に建物を建てていました。駅を中心に、商売をする方、デパートやスーパー、飲食関係などが、平和通から区分けをされたところにありましたが、現在は混在しています。これらをうまく整理できたら、本当にいいまちになると思っています。私たちは仕事柄そのようなことをいつも思っております。

先ほどの大学の件も順調にいったるのではないかとと思っています。上から目線ではありませんが、私たちも何もしないのではなく、少しでも協力させていただけたらと、日々この一帯の不動産業者は動いておりますことをお伝えさせていただければと思います。

(会長)

ありがとうございます。事務局何かコメントございますか。

(事務局)

駅周辺の魅力については、駐車場として平面駐車場が多数あります。気になって数年前に調査もしており、台数など全ては覚えておりませんが相当数ありました。その利用率などもどうなっているかという点は気になっています。

ご意見としてありましたように、空いた店舗や建物を壊して駐車場になるという流れではなくて、リノベーションしてまた新たな建物が入るような流れにしていくことも大事だと思っています。

先ほど申し上げました空き家ともリンクしてきますが、既存の建物などのストックをうまく活用できるような仕組みづくりが必要だと思っています。そういうことをしていかないと、今言われたような駅周囲に駐車場が増えていくなどの低未利用地が増えていくという流れになるのだらうと思っています。

その辺りは、所有者の個人の財産になりますので難しい面はありますが、市としては駅周辺の魅力を高めていくことを進めていきたいと思っています。

(会長)

委員がご指摘された大学と中心部の空き家の関係を少し関連づけて話すと、今全国で学生のシェアハウスが人気のようです。宇部市でも、工学部などの学生が数名集まって、空きビルをリノベーションして住むというのが結構流行っています。学生はずっと住むわけではないので軽いノリでやっているようです。そういった中心市街地や市街地の居住密度を上げていくなどの良い影響をその商業機能にも与えていくという良い循環が起こっていくと、周南公立大学の定員が増えているわけですので、それらのキャパシティを中心市街地に求めていくことも 1 つの施策として、あってもいいのかなと思いました。その他ございますか。

(委員)

資料 1 の 20、21 ページにわかりやすいグラフがあったのですが、区域外での開発が多いことについて、田が宅地になっており、田が約半分を占めているということだったと思います。私も個人的にいつも思っていますが、百姓をする方が少なくなって、田がそのまま荒れ地になっているところもあり、田を宅地に変えていくというのはいい方向だと思いますし、宅地に新しく開発をするのは難しい状況だと思います。資料 2、3 で、菊川地区は新築や集合住宅が多いということで、何年も前から菊川は周南市

の中で唯一人口が増えているなどの話をよく聞いていました。それについて、詳細は不明かもしれませんが、田を宅地に変えられたところが多いのかという質問が1点です。

もう一点は、今後、区域以外のところに建物が建つということは、田や山地、畑などにということでしょうが、今後長く考えると限界があると思います。そうすると、今全国的にも問題となってる空き家について、解体してそこに宅地を建てていくと、街中にも建ってくるのではないかと思います。一概には言えないと思いますが、市で空き家についての対策や今後の方向性がありましたら教えていただきたいです。

(事務局)

まず菊川地区の新築等の動向については、資料2に示していますように、水色のプロットが居住に関するもので、四角が開発行為、丸が建築行為です。図を見ていただくと、大神周辺に四角が多くなっており、詳しいデータは今持ち合わせていませんが、従前は田だったであろうことが推察されます。

もう1点の空き家の解体につきましては、市の住宅課で、危険空き家解体事業補助金を創設しています。元々は危険空き家対策で、管理が行き届かない空き家で、周辺の通行人等に危険を及ぼす可能性が出てくる空き家は、手続きをとって、空き家解体の補助金を用意しています。利用状況までは把握できていませんが、住宅課と連携しながら調整していきたいと考えています。

(委員)

私から空き家問題について追加で補足させていただいてよろしいでしょうか。

空き家問題については、5月に固定資産税の通知が届きます。その中で何年も前から、我々不動産協会と相談対応等を行っています。今年は特に空き家相談という山口県本部の封筒が入っており、本部や市の住宅課で電話相談をしています。

本当に困ってる住宅につきましては、私たちは専門的な勉強をしてきていますので、直接お客様から県へ相談があり、県から周南支部にいき、それから我々不動産協会に来て、我々がお電話で回答しています。これらが5月から非常に増えます。ただ、今おっしゃった菊川や城ヶ丘などの目に見えてこれから先も使える場所の相談はほとんど無いです。一番相談が多かったのは、鹿野方面とか菅野方面、須々万や夜市方面の山の際などです。それも家が建ってても、この家が使えるかどうかわからないようなものがほとんどです。我々もできれば少しリフォームして使えるものであればそうしたいと思い、その相談から入っています。今、住宅課と共同でやっていて、山口県内では周南市だけが対応している状況です。

これから、来年再来年にかけて、全国的に新しいものばかりではなくて、使えるものを使っていくという考え方へ変わっています。それでも、我々が見てもどうしようもない物件がほとんどです。土砂災害地域や川の氾濫に近いところについては、このままでは使えませんから、壊されるか、例えば近所の方にどなたかいらっしゃればそちらとお話する等のアドバイスをしています。こういった案件が5月以降、1人の担当のところに約15件あります。売買等ということよりは、アドバイスだけはさせていただきます。

以上のように、色々な角度から周南市も動いていることは確かです。この場に住宅課の方はいませんが、我々は住宅課の方から依頼を受けて動いています。少し補足で話をさせていただきました。

(会長)

ありがとうございました。事務局コメントありますか。

(事務局)

空き家の利活用というのは非常に大事だと思っております。先ほども少し申し上げましたが、土地が

ないことが1つの周南市の課題と思っていますので、解決策の1つとして住宅課とも連携して進めていきたいと思っています。

(会長)

ありがとうございます。

それでは最後の施策の取り組み状況も含めて全体を通して、皆さんからご意見、ご質問ございましたらお願いします。

(委員)

防災指針の今後の取り組みについてお聞きしたい。

(事務局)

防災指針については、令和7年2月の立地適正化計画の改定で組込みました。本編では121ページからになります。この防災指針の目的は、居住促進区域内の安全性を高めるため、また居住促進区域内の災害リスクをできるだけ回避、或いは低減させるということも目的として、防災減災の施策を計画的に実施することが目的となっております。

先ほど少し説明の中でもありましたが、防災指針に掲載している施策については、周南市国土強靱化地域計画と整合をとっていますので、ハード・ソフト両面で、それぞれ所管課と連携して進めていきたいと考えております。

(会長)

その他ございますか。

(委員)

資料10ページの都市機能誘導区域で「賑わいと活力の創出が求められる」と記載してあり、中心市街地が該当すると思いますが、魅力あるまちにして皆さん出店したいと思えるまちづくりになったらいいと思うので、そのように取り組んでいただきたいと思います。

あと2点お願いします。先ほどの通行量の話ですが、資料27ページに通行量の調査時間があったと思いますが、10時～19時と書いてあって、おそらく18時、19時というのは、家に帰ったり、電車に乗ったりされる方が多いのではと思います。賑わいを考えるのであれば、通行量も時間帯で分けて、数字が変わってくるのではないかと思います。19時を含めるのであれば種類が少し変わってくると思うので、時間帯で別々に見えるようにした方が、通行量としては分かりやすいのではないかと思います。

それと資料1の36、37ページで、転出と書いてありますが、転入の数値については特に含めずに転出だけを示しているということでしょうか。周南公立大学も3年になって、これから就職される方とか、今後、転入というのも考えられると思いますし、また、そうなったらいいなとも思うので、そういった数字も見えたらいいなと思いました。

(事務局)

まず1点目の魅力あるまちづくりを進めて欲しいということについて、ご意見ありがとうございます。徳山駅周辺をはじめ、ハード整備事業を進めてきました。ただ作って終わりではなくて、作った後どう使うかということが大事だと思っています。そういったことから、前回の本協議会では説明させていただきましたが、徳山駅周辺官民連携管理運営事業を令和5年度から始めています。民間の皆様のノウハウを生かして、まちづくりを進めていきたいということで、イベントの開催数が増えているなどの成果も一定程度出ています。引き続き、行政だけではなく、民間の方々とも一緒にまちづくりを進めていければと思っています。

続いて、2点目の通行量を時間帯で分けてはどうかというご意見については、本日の資料で示しては

いませんが、データとしては10分間隔でとっており、1時間毎についても当然集計データとしてはありますので、必要に応じて分析もしていければと思います。

それともう1点、転入についてですが、今回は転出についてクローズアップさせていただいて資料を示しています。転入については、立地適正化計画本編の33、34ページをご覧ください。33ページの青色のグラフが男性で、34ページ赤色のグラフが女性を示しています。この中の棒グラフで、濃い方が転入、少し薄い方が転出になっており、データとしては、少し大きい括りのデータしかありませんが、大きい流れを見ていくという意味では、転入転出の両方を把握しております。ご意見いただいたように転出だけではなくて、転入も非常に大事になってくると思います。大学卒業されて外に出ていく方だけではなくて、いかに残っていただけるか、また、外から帰って来ていただけるかということも大事だと思いますので、引き続き併せて注視していきたいと思っています。

(会長)

その他ございますか。

(委員)

女性や子育て世代の暮らしを支える都市機能の充実について、今後の取り組みについてお聞きしたい。

(事務局)

都市機能誘導施設として子育て交流センター等を位置付けており、子育て世代を手助けするための施策について引き続き進めていきたいと思っています。また、働く場所やライフステージが変わる毎にどういったことが必要なのかという話もあると思いますので、幅広く検討して、関係課と連携しながら進めていきたいと思っています。

(会長)

その他ございますか。

(委員)

先ほど中心市街地の活性化の話が出たので、少しだけ徳山工業高等専門学校の最近の動向を紹介させていただけたらと思います。TOKUYAMADECKが9月に空き店舗無しでフルオープンできるということで、今、徳山工業高等専門学校の学生もあそこを何とか盛り上げたいというような動きがあります。動機はプリクラの機械が入ったということで、TOKUYAMADECKの運営の方に色々と要求等したりといったことなのですが、学生もまちを盛り上げたいという気運が徳山工業高等専門学校でもありますし、周南公立大学は徳山駅周辺にラボを出していたりするので、徐々にそういったところが浸透しているのではないかと思います。株式会社パークタウン商業運営の方たちも、そういった若い力と一緒に頑張って盛り上げようという気運も少なからずあるので、これから我々も学生を助けながら、若い力で徳山の中心市街地をこれからさらに盛り上げていけるように頑張っていきたいと思っています。

(事務局)

ありがとうございます。やはり学生のご意見は非常に気になっております。昨年度も、高校生を対象にアンケートをとっています。若い人たちの考えも非常に重要だと思いますので、色々とまた連携させていただければと思います。

(会長)

他にございますか。

(委員)

周南公立大学の学生が増えてきてるので、色々と経済波及効果があるのではないかと思います。いろいろ具体的な数字について、転出の話でも出ていたと思うのですが、これらの具体的な数字に関しまし

ては、市の企画課が毎年とっている周南公立大学の調査があると思うのですが、それ以外に関してもたくさんあります。今回説明お聞きしていたときにも、言いたいことがたくさんありましたが、受託事業で調査しているので、その著作権の関係でなかなか言えておりません。ただ、私が把握しているもので900人ぐらいの周南公立大学の中でも一番多い人数の学科を対象にとったアンケートなどもあり、私の方まで言うていただければ情報提供させていただきますのでご活用いただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。

(会長)

他にございますか。

(委員)

1点だけお願いになります。先日、周南公立大学の若い学生と話す機会を設けたのですが、その中で先ほどの居住の説明にもあったように、今、城ヶ丘周辺にアパートなども増えてきて、周辺に住んでいる学生も多いのですが、下松に住んでる方も多くいらっしゃいました。

その学生達の見解として、街中に出るのに移動手段が無いので、中心市街地にはなかなか出てこれないという意見が多かったということと、学校までのアクセスが悪く、バスにも乗り切れないし、少しバスが遅延してしまうと学校に遅刻するということで、何とかしてもらえないかという要望がありましたので、ぜひそういった施策も打っていただくとありがたいと思います。そうすると学生が街中にも来られると思います。また、バイトをしたときも帰る移動手段が無いから街中ではバイトができないという意見もありましたが、併せて解決できるのではないかと思いますので、ぜひお願いできたらと思います。

(事務局)

こういうご要望、課題といったご意見をいただいたということ、関係課へ共有したいと思います。

(会長)

その他ございますか。

(委員)

今後の公共交通ネットワーク状況についてお聞きしたい。

(事務局)

公共交通のネットワークについては、周南市立地適正化計画は、コンパクト・プラス・ネットワークという考え方で進めています。コンパクト・プラス・ネットワークは、拠点形成と拠点間を公共交通のネットワークでつなぐという両輪から成り立っています。公共交通ネットワークの所管課が、周南市地域公共交通計画を作成していますので、立地適正化計画と併せて、所管課とも連携しながら、誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの形成を進めていきたいと思っています。

(会長)

時間が迫ってきましたが、その他よろしいでしょうか。

本日色々のご意見をいただきました。立地適正化計画及び都市再生推進協議会でPDCAをうまく回していくということですが、非常にたくさん意見が出てきて、今後もうまく回っていくのではないかと期待しているところです。

なかでもやはり大学に対する期待が非常に大きいということを、皆さんの意見から感じていました。大学というのは非常に地元からの期待が大きくなります。ただ、どう活用していき、お互いがWin-Winになるかが重要だと思うのでぜひご検討いただきたいと思います。

また、徳山駅周辺のハード整備がどんどん進んでいく中で、やはりもう1つはソフトの方をどうして

いくかということです。今回は空き家の話が色々出ていましたが、空き家をハードでとらえるのかソフトでとらえるのかは非常に難しいですが、そこはソフトにとらえて、一刀両断していく話ではなく、うまく回していくソフトの取り組みについても今回色々意見出ましたので、そういった取り組みもうまく仕掛けていき、トータルで事業化していく施策をぜひ展開していただきたいと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

それでは時間が迫ってきましたので、本日の都市再生推進協議会は終了させていただきます。皆様ご苦労さまでした。

(事務局)

会長、円滑な議事進行をいただきましてありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては長時間にわたりありがとうございました。以上をもちまして、第 19 回周南市都市再生推進協議会を閉会いたします。委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。

午後 15 時 50 分 閉会